

令和5年12月26日（火曜日）

高校生と姫路市議会との座談会（厚生）

議会会議室

出席議員

中西祥子、金内義和、阿野れい子、三輪敏之、
仁野央子、竹中隆一、萩原唯典、岡部敦吏、
牧野圭輔

出席高校生

姫路西高等学校 4人、姫路東高等学校 2人、
姫路女学院高等学校 5人

開会 10時00分

委員長挨拶 10時01分

出席者紹介 10時03分

意見交換 10時07分

○個別テーマ

・男女共同参画の推進

「ジェンダーギャップを解消するには？」

（委員長）

本日の進め方として、個別テーマである「男女共同参画」について意見交換を行い、時間があれば、共通テーマである「議員や議会の役割」についての意見交換を行うこととしたい。

先日、発表されたジェンダーギャップ指数レポートによると、日本は世界146か国中125位という結果であった。これは前年の116位からさらにランクダウンしており、いろいろ考えていけないと思う。

まずは、各校から4つのテーマ候補から本テーマを選択した理由を聞きたい。

（高校生）

私たちがこのテーマを選択したのは、英語の授業でジェンダーギャップに触れ、興味を持ったのが理由の1つである。また、SDGsにおいても、本テーマは身近なものであるが、他の項目より目にすることが少なく、自分たちでいろいろと考えることがあるのではないかと感じたからである。

（高校生）

近年、学校の制服にスラックスが選択肢に入り、徐々にジェンダーギャップが解消されていると感じているが、解消されていないところもあるのではないかと感じ、もっと深く知りたいと考えてこのテーマを選んだ。

（高校生）

私たちは女子高であるが、この問題に対して自分たちで向き合おうと考えたのが理由の1つである。また、リベラルアーツというSDGsに関する授業を受けているので、学びを深めようと思い選択した。

（委員長）

学校や生活の中でジェンダーギャップを感じたことはあるか。

（高校生）

私たちの高校では、女子は制服の第一ボタンを閉めないといけませんが、男子は開けていても問題はないという校則があった。

ただし、最近では、職員室への入室時以外は、女子も開けていてもよいと校則が変わった。そのような面では少しずつ改善されていると思う。

（高校生）

学校内では、ジェンダーギャップは感じていないが、夫婦間の役割として女性は家事をして、男性は仕事をするという考えが親に聞いても染みついている。ジェンダーギャップの解消には、そのような考えを変えていく必要があると思う。

（高校生）

私たちの学校は女子高なので昔はスカートしか選択肢がなかった。最近、スラックスが選択できるようになったが、始業式や終業式では、スカートの着用が決まっている。そこは改善の余地があると思う。

（高校生）

私の友人は、スラックスを選んだが、学内でスラックスを履いている生徒がほとんどいなかった。校則として認められているが、周りの意識がすぐ変わるわけではない。

悪意はないようだが、周りからは「なぜスラックスにしたのか」と聞かれ、気にしているという話を聞いた。校則を変えるだけでは改善されないと思った。

（委員長）

ジェンダーギャップ指数のうち、特に政治と経済分野が海外と比較して日本は低い。このことについて、議員から意見を聞いてみることにしたい。

（議員）

今年、市議会議員選挙があったので政治分野に触れたい。

日本は世界に比べて、女性議員が少ないと言われて

いる。姫路市議会においては、今は45人の議員定数のうち10人が女性であるが、私が初めて出馬した昭和58年当時では議員定数52人のうちで、女性議員は1人だけであった。比率で言えば、改選前の女性議員が全議員に占める割合が大体15%ぐらいであったのが22%にまで上がったことになる。

女性議員が増えた理由は、女性自身の意識の高まりが一番大きいですが、近年では、少数政党でも女性の進出を後押ししようという意識が強くなっていることもある。

私が責任者を務めている自民党も今までは女性が1人立候補しなかったが、これではいけないと強い意識を私自身が持ち、党内で議論をし、公認と推薦で各1名の立候補を出し、2人とも当選した。それが今回の全体の底上げに少しつながったと思う。

なお、今回の市議会議員選挙では、女性の立候補者は13人であり、立候補者数でも女性が全体に占める割合が20%を超えた。この増加傾向をさらに高めていく必要があると考えている。

また、先ほど制服のスクラックスの話が出たが、私の地元の四郷中学校では、冬場にスカート着用を押しつけるのは不合理であるということで、早い段階で校則を変更してスクラックスの導入を開始した。

その後、小中一貫校として四郷学院という新しい学校が開校した際、制服については、スカート、スクラックス、ネクタイ、リボンも自由ということになった。

さきほど、スクラックスを履きたいけれど着用者が少ないので恥ずかしいからやめたという話があった。

それは、「そういうふうに見てしまう」、「考えてしまう」という意識の問題もあるが、単に制服が変わったというだけではなく、その背景にある社会意識やジェンダーギャップの問題も含む世の中の差別の問題について、しっかりと勉強や議論することが必要である。制服を変えたから全てが変わるというものではなく、自分も含め、意識変革の努力が必要であるという意識を持って、みんなで勉強したら面白いのではないかと思う。

(委員長)

姫路市議会の状況について議員から説明があったが、ほかに意見はないか。

(議員)

先ほど、式典の際にはスカートを履くことが校則で決まっているという話があったが、学校から理由を聞いているのか。女性はスカートを履くのが正装という意識があるからなのか。

(高校生)

詳しくは聞いていないが、根底に差別というか、そのような考えがあり、払拭されていないと思う。

(議員)

学校から指示されたとき、個人的にはどのように感じたのか。

(高校生)

疑問は持った。

(高校生)

勝手に決められるのは嫌だなと思った。

(委員長)

女性議員が増えたことについて、今回の改選で初当選された女性議員から意見を聞いてみたい。

(議員)

大学くらいまでは男女差を感じることに、とりわけ女性が不遇の立場に置かれていると感じることはおそろくないと思う。そのような思いをすることになるのは、就職してからだと思う。

私は、歯学部に通っているときに結婚していたが、歯科の研修医は、夜の11時や12時まで残って仕事をすることが普通にあった。家庭のある私は早く帰る必要があったが、仕事の場では、主婦だからといって早く帰ることは許されず、仕事もどんどん周りに抜かれていった。当時、私は「男性に生まれてきたらよかった」、「自分が男性であればもっと仕事に打ち込めた」と思った。

家事を男女で分担するという考え方が当たり前にならないと女性の社会進出は上手くいかないと思う。私の親世代では、家事は100%女性がするものであり、皆さんの親世代である私ぐらいの世代でも8~9割の家事は女性がすることが普通であったと思う。

皆さんの家庭での家事分担はどの程度か、また、皆さんが結婚したとき、家事の分担比率をどうしたいのか教えてほしい。

(高校生)

私の家庭は共働きであるが、家事は基本的に母がしている。父もたまにご飯をつくるが手伝うという感覚

で、掃除や洗濯も全て母がしている。

(高校生)

私の家庭も共働きだ。母のほうが早く帰宅していることもあり、平日は母が家事をすることが多い。父は仕事が休みのとき、家事をしている。父が家事した場合、母は感謝の言葉を述べるが、その逆はない。それはどうかと思っている。

(高校生)

私は母子家庭であるが、離婚前の家事はほとんど母がしていた。男性は家事をしないなと思った。

(委員長)

男性にもいろいろと意見があると思う。男性議員からも意見を聞きたい。

(議員)

家事は比較的手伝っているという認識であるが、妻にはトイレや風呂掃除はともかく、「台所には立ってほしくない」と言われる。女性の中にはそういう意識を持っている人もいると思う。

先ほどの制服の話は、いろいろな考え方があると思うが、スカートからスラックスに変えていくことに、あえて問題意識を持つのはどうかと思う。極論になるが、私服でも可となれば、スラックスでも違和感なく、すんなりと受け入れられると思う。それが制服という切り口になると、女性はスカート着用が定着しているので、スラックスを履くことへのハードルが上がってしまうと思う。制服は、一体感や経済面などのよさもあるが性別という枠から脱却できていないと思う。

議会に関して言えば、男性議員は、スーツにネクタイを着用している。これは、公式の場ではネクタイを着用するというルールによっているが、女性議員にはそのような規定はない。男性だけそのような規定があるのは、ある意味ジェンダーギャップであると思う。

(委員長)

高校生にも参考になると思うので、女性議員から政治の世界に関わろうとしたきっかけを聞いてみたい。

(議員)

私が政治に興味を持ったのは、小学生の頃、公民で憲法や法律の授業を受けたことがきっかけだったと思う。大学で経済学を修めた後、もう少し社会の役に立ちたいと考え、歯学部に入學し、歯科医師になり、高齢者施設や障害者施設で訪問診療をしていた。

その中で困ったことがあり、他都市の女性議員のブログを見て連絡したところ、親身になって動いていただき問題が解決したことがあった。

その方は、すごく話しやすい方であり、そのような女性が市民の近い立場で政治に声を届けることはとても重要であると思った。

また、訪問診療で「男性の先生が怖い」、「女性の先生がいい」というリクエストを受けることが多かった。女性だから話や相談をしやすいということに価値を感じて、議員になろうと思った。

(委員長)

議員活動の中で、ジェンダーギャップ解消のために、取り組んできたことや関わってきたことについて、男性議員からも意見を聞きたい。

(議員)

議会は、ジェンダーギャップのひずみを解消していくための制度を作る立場だと思う。育児を例に取ってみると、女性の育児休暇の取得率は非常に高いが、男性の取得率は非常に低い。これは、一般の会社だけでなく、市役所でもその傾向にあり、本会議の質問で取り上げたこともある。

社会構造が変わり、新たな制度が設けられても、いざ運用するとなると最終的に意識の問題が出てくる。

私の世代でも、男性は働き、女性は育児という考えが染みついていると思う。皆さんの世代が社会に出れば、この問題もさらに解消していくと思うが、社会のルールを決めているのは、やはり上の世代である。そのため、その世代の意識が変わっていかなければ、新たな制度もなかなか浸透していかないと思う。

しかしながら、第一歩を踏み出さないと何も変わらないので、官民を問わず、積極的に育児休暇を取得して、育児に参加していくこともジェンダーギャップ解消の糸口になると思う。

(議員)

男性も育児に参加しないと女性の負担は大変なものとなる。男女とも同じ社会で過ごしているのもっと女性も声を上げるべきだと思う。昔は女性政治家が少なかったが、例えば、土井たか子氏のように力強く訴える女性政治家が多かったと思う。女性の立場を改善するには、誰かが主張しなければいけない。女性も家事で忙しいからという理由で、逃げてしまっている

ころがあるのではないかと思う。

(委員長)

赤ちゃんのおむつを替える際、女性トイレには交換台があるが、男性トイレにないため連れていけないという相談を受け、調べたことがある。当時は、市役所では保健所の男性トイレの見えにくい場所の1か所にしか整備されていなかったため、男女共同参画推進センター「あいめっせ」の男性トイレにも1つ整備してもらった。

学校などでも言えると思うが、まず、参加できるように変えていく取り組みもあると思う。

次に、各校からジェンダーギャップ解消のための提案があれば、発表してもらいたい。

(高校生)

制度はできあがっているし、取組も進んでいると思うが、議員の話にもあったとおり、根本から意識を変えていかないと何も変わらないと思う。

テレビやポスターなど、みんなが見えるような形で発信していけば、意識が変わっていくと思うが、効果が出るのも時間がかかると思う。

そのため、今のうちに制度は充実させていき、時間をかけて意識を変えていくための発信を続けていくことが大事だと思う。

(委員長)

姫路西高等学校と姫路女学院高等学校から資料に基づき提案を発表したいとの申し出を受けているので、説明を受けることとする。

【姫路西高等学校が資料に基づき説明】

【姫路女学院高等学校が資料に基づき説明】

(委員長)

先ほどの高校生からの提案について、議員から意見や感想はあるか。

(議員)

先ほど、意識を変えていく必要があるが、そのためには制度を充実させ、広報啓発を行っていくことが必要であるとの意見があったが、そのとおりだと思う。

存在が意識を決定するというが、意識を変えていくには心の中で思うだけでは駄目で、環境や制度をどんどん変えることが必要だ。

姫路市は、男女共同参画推進条例を制定しているが、当初、この条例の原案が議会に提出された際、審議会の規定における女性比率について、「男女のいずれか一方の委員の数が委員総数の10分の4未満とならないよう努めること」という案であったが、そのような柔らかい表現では意味がないと議会が厳しく押し返した結果、「男女それぞれの構成員の数がその総数の10分の4以上となるよう努める」と修正されて再提案された。

現在のところ、完全に条例の求める女性比率での運用ができていないわけではないが、当初は10%未満ぐらいであったものが、37~38%ぐらいまで女性の占める割合が増えており、姫路市が男女共同参画推進条例を制定したことや議会が厳しい指摘をして内容が修正されていったのは非常によかったと思う。

また、先ほども触れたが、今回、自民党から初めて女性が2人出馬し当選したが、その女性議員がこの12月に初めて本会議で質問した。性暴力の被害を受けた方への支援、動物愛護問題など我々男性議員も関心はあったが、あまり取り組んでいなかった課題を取り上げていた。非常に感心したし、私たちのグループに入ってくれて本当によかったと感じている。

(議員)

私も新人議員であるが、初当選した議員11人中6人が女性である。これから時代が変わり、新しい変化が生まれてくると感じている。

問題の根本となる意識をどのように変えていくのか、どのような啓発活動が必要か、また、それを認識していくことが重要であるとの意見があったが、ポスターを貼って終わりではなく、SNSを活用し、若い世代に見てもらえるような環境づくりを考えていく必要があると感じた。

(委員長)

高校生から何か追加の意見はあるか。

(高校生)

政治分野におけるジェンダーギャップ指数が低いという話があったが、政治に関わりたい、議員になりたいと感じる場が必要だと思う。

議員の仕事が増えてしまうことになるかもしれないが、学生が議員に興味を持つような話を学校でどんどんしてもらえれば、もっとジェンダーギャップは解消

していくと思う。

(委員長)

このような機会がないと、高校生から意見や話などが聞けないので、学校への出張もいいと思う。

(議員)

少し違和感があるのは、報道でよく言われているが、政治の世界において「女性＝クリーン」というイメージがあり、女性を立てれば、問題が改善するという切り口があることだ。

今、政治資金問題がニュースで取り沙汰されているが、女性を立てて問題を収束させたいという動きがある。こういう形で女性が利用されるのは問題であるし、女性に対して失礼な部分があると思う

今日参加していただいた皆さんも、政治への参加も含めて発信していただければ、また次の世代での改善につながると思うので、ぜひ頑張ってもらいたい。

(委員長)

他に何か意見や質問はないか。

(議員)

皆さんからいろいろと聞かせてもらってよかった。私の祖母も議員であったが、その前は学校の先生であった。当時、女性教員は珍しい時代であったが、女性が社会に進出しようと思うと、やはり男性の協力がないと難しく、祖父が積極的に家事育児に協力していたと聞いた。

また、先ほど、女性の視点を入れるため、政治に女性が進出すべきであるという意見があったと思う。

相続権の話になるが、今でこそ男女平等で、配偶者に2分の1の相続権があるが昔は違っていた。その時代に女性の視点で、妻の立場をしっかりと法律に反映されなければいけないということを、祖母や他の議員が声を上げたことが、制度変更につながったと聞いた。

まさに女性のリーダーが必要と感じた。本日は女性の参加者も多いので、将来、女性議員を目指して頑張ってもらいたいと思う。

最近、大谷選手の大型契約がニュースとなったが、娘から「私も野球選手になってあれだけもうけてみたいけど、女性だからできない」という話があった。

日本のスポーツ界では、女性もゴルフでは億単位の賞金を稼ぐ選手が増えているが、世界で見ると、野球、サッカー、ゴルフと男性のほうが賞金額や契約金額は

大きい。性の差ではなく、体格的や問題やスポーツの興行面などの要素もあると思うが、皆さんはどう思うか。

(高校生)

私のいとこの話になるが、小学生の頃、野球で全国大会まで出場したが、中学に上がる頃、女子は甲子園に出場できないと知ってすごく悲しんでいた。

また、中学校で野球部に入部しようとしたら、マネージャー希望かと聞かれ、女子は野球ができないと感じて違う部活に入部したとも聞いた。

野球は体格的なことも確かにあると思うが、やりたいことができないことがあるということを感じた。

(高校生)

私の弟は中学校で野球部に入部していたが、部員に女子もいた。メンバー入りもして、総体などに出場したと聞いた。中学校の制服にも言えるが、どんどん進んでいると感じた。

大谷選手の話は、女性は野球ができて、選手ではなく、コーチなど違う形でしか仕事はないと思う。スポーツ分野で女性が力を生かせる場は少ないと思う。

(委員長)

個別テーマに関する意見交換は、意見も出尽くしたと思うので終了したいと思う。

○共通テーマ

・議員や議会の役割

「議員って何をしている人なんですか？」

(委員長)

次に共通テーマについて意見交換したいと思うが、時間の関係上、議員に是非とも聞いておきたいことがあれば、質問してほしい。

(高校生)

地元の行事に参加しているところを見ることがあるが、議員が議会外でどのような仕事をしているのか教えてほしい。

(議員)

議員として最低限知っておかなければならないことが多く、そのためには勉強が必要で、さらに地域の方々と必ず毎週1回話をする機会を設けている。

私はまだ新人1年目ということがあられるかもしれない

が、議会以外の時間は、大体、6割が勉強で4割が実際に人と会っているという感じである。

(議員)

私も同じ1年生議員であるが、勉強することは本当に大事である。

何かテーマを1つ取り上げてみても、先達の議員が既に質問したことを発信しても時間の無駄だと思うので、重複することがないように過去の議事録などを調べるほか、課題やボトルネックになっている部分などもしっかりと勉強して調べている。また、私の所属している政党は、他の自治体の議員や国会議員もいるので、分からないことがあれば聞いている。

姫路市だけでなく、社会を面白くするための工夫や、みんなが安心して暮らせる社会をつくるための勉強にかなりの時間を割いている。

(議員)

私も新人議員であるが、生活者の代表という立場で、自分の子育ての経験を生かして何ができるのか考えて議員活動をしている。

私は公明党の議員で「小さな声を、聴く力」は党のモットーとなっているが、とにかく人と会うことにしている。1人1人の小さな声を聞いて、自分1人ではなく、県や国会議員などのネットワークも使って、しっかりと形にしていくことに取り組んでいる。

(議員)

行事に参加するのは、決して選挙活動のためだけではなく、一番身近な地域の方から相談事を受けるきっかけとなる場であると考えている。

また、市政にはいろいろな課題があるので、それに対する調査研究が大きな仕事であるし、できるだけ市民に見えるような形で発信していくことも大事であるので、結論だけでなく過程も示していくことも大事だと考えている。

(議員)

議員は皆さんの声を市政に届けることが基本的なことだと思う。そのためにイベントがあれば参加し、参加者と交流を持ち、いろいろなことを話していただけるように心がけている。

(議員)

議員の仕事は、大別すると2つある。市は二元代表制であるので、議会は市長から提案を聞き、審議して、

可否判断を示すという仕事がある。

市からの提案に問題はないのか、あるいはお金の使い方が正しいのかどうかを審議していく必要があるので、議員は勉強していく責任がある。それと同時に、市長や市の職員が気づかないことを政策提言していくことも必要である。一例を挙げれば、高校生までの医療費無償化で、我々厚生委員会を中心となって、議会として実現を求めるための決議も行っている。

もう1つは、多くの市民と直接関わることである。私は長らく議員を務めていることもあり、40ぐらいの各種団体の役員や顧問に就いているが、その会合が年に1回だけだとしても40回出席する必要があり非常に多忙だ。

また、議員の仕事の範疇内外にかかわらず、市民からのいろいろな相談に対して丁寧に対応するのが我々の仕事であると思っている。

また、私は自民党に所属しているが、市や党のために国や県に陳情に行くような役割もある。

(議員)

議員は「偉い人」などの先入観があるかもしれないが、それは全然違う。立候補させてもらって、皆さんから選んでいただき、仕事をさせてもらっているだけで皆さんと何ら変わらない。異なるのは、選んでいただいた以上、奉仕の精神を持って一生懸命に働くということだけである。

だから、議員に対しては、もっと気楽に、いろいろと話をしてほしいと思う。その意見を聞いて、実現されるようにしていくのが我々の仕事であると思う。

(委員長)

本日は、主にジェンダーギャップの解消について意見交換を行ったが、各校ともしっかりと勉強して意見をまとめてきてくれたと思う。

ジェンダーギャップの解消には、意識を変えていくことが大事であり、私たちが政策を変えていかないといけないことも出てきたと思う。

具体的な提案も出てきたので、担当課に伝えるとともに、日本のジェンダーギャップが少しでも解消されていくように我々も頑張っていきたいと思う。

意見交換終了

11時38分

副委員長挨拶

11時39分

閉会

11時40分